

中学校は6年級で

新学期、新しいお友だちをいっぱい笑顔

4月、町内の小、中学校で新入学のスタートを迎えました。幼児センターは昨年に比べて13人多い56人の新しいお友だちが入園しました。町内の小学校は4校合わせて昨年より5人多い68人、中学校は昨年に比べて2人多い78人が入学しました。



お友だちがいっぱい〜うれしい入園式(幼児センター)

51人の園児が元気な笑顔で勢ぞろい。
新登園のうれしい朝、駆け足で登園してきた園児は、初めての教室、保育室で新しいお友だちとごあいさつ。伊藤園長は「来週からは早起きをして、朝ご飯をしつかり食べて通ってきてください」と元気なみんなを歓迎しました。
中井悠太君(5つ)、中井海美ちゃん(5つ)2人は「たくさんのおともだちやせんせいがいいます。たのしいおあそびがいっぱいあります」と新しいお友だちを迎えました。

幼児センター(伊藤和代園長)では4月11日、第13回入園式を行いました。0歳から5歳まで昨年より21人多い2

東川小学校(大久保善邦校長)、は



ネクタイ姿とワンピースで仲良くおしゃれに決めて(東川小で)

4月6日入学式を行いました。新校舎に迎えた最初の新入生は55人。

ネクタイ姿でおしゃれな男子、女子はかわいいジャケットやワンピースの晴れ着姿で今日から一年生入学式は男子と女子が一緒に手をつないで仲良く入場。2年生の中竹優華さんが「給食はおいしいです。勉強は楽しいです」と歓迎しました。



期待と希望と緊張の入学式(東川中で)

国内初の市町村立日本語学校

東川日本語学校、10月開校へ

日本語を学ぶ東アジア地域などからの語学留学生を受け入れる町立東川日本語学校(仮称、二宅良昌校長が今年10月、開校することになりました。市町村立の日本語学校は国内初めてです。

6年前に町が開設した短期の日本語研修制度を発展させ、新たに各種学校として語学学校を開校します。これまでの短期研修制度(1カ月、2カ月、3カ月の各コース)に加えて、1年(定員20人)と6カ月(同40人)2コースを設置。外国人の多様な日本語学習ニーズに応えることができるようになります。

設置場所は、昨年10月移転した旧東川小学校校舎。入学は10月、4月(6

カ月コース)の年2回。すでに10月開校に向けて第1期生の募集を開始しました。台湾では2年前に設置した台湾連絡事務所、インターネットで募集する予定です。

開校後のカリキュラムには日本文化体験を取り入れ、日本文化理解、多文化相互理解を学んでもらう予定。短期研修コースで実施している体験プログラムの写真、陶芸、茶道、日本料理、日本舞踊、琴、スキーなどの体験研修



日本語学習者留学生が集ってステージ出演交流

4月21日、町は農村環境改善センターで「タイ、台湾、中国、ブータン日本語研修生交流文化まつり」を開きました。

町内で日本語を学ぶ中国、台湾、韓国、タイ、ブータン、ベトナム、インドネシア7カ国・地域の語学留学生、

研修生約200人が会場に集まり、日本とタイの歌や踊り、演奏を楽しみました。

交流文化まつりは3回目の開催。日本文化の一端の披露として大正琴演奏、日本舞踊、女声コーラスの町内グループが出演。海外からはタイの留学生、

研修生が出演して、14歳の中学生が踊るタイダンス、古典舞踊、南部舞踊、タイ式ボクシングの形披露を見せてくれました。

留学生、研修生と町民との文化交流の集いは、各国文化の披露交流の場として今後さらに広めることにしています。



を導入予定です。

町の短期日本語研修制度は2009(平成21)年に開設しました。韓国の高校生46人が夏休み3週間の短期研修に来町したのが始まり。その後研修生は、台湾、中国、ラトビア、カナダ、ノルウェー、タイ、ベトナム、インドネシア、シンガポール、ヨルダンのウズベキスタン、ブータンの13カ国(順不同)に広がり、延べ千100人以上が受講しました(4月末現在)。各国留学生のための寄宿舎として、昨年11月町営の国際交流会館も建設完成しています。